

中央アジア・アフリカの農村女性政策担当官 9 名が 女性農業者の活躍を視察・研修しました

去る 6 月 14 日（火）及び 15 日（水）の 2 日間にわたり、（独）国際協力機構が実施主体である海外研修「農村女性能力向上」コースの現地研修が県庁及び福島市内で行われました。

この海外研修は、中央アジア、アフリカ地区の中央・地方政府の農村女性政策担当官が、日本の女性農業者の活動や普及支援手法等の事例研究を行い、自国農村女性へのより効果的な支援方法を習得することを目的に実施され、具体的な手法の事例として、今回本県を視察研修したものです。

研修生 9 名は、アフガニスタン、バングラデシュ、ネパール、パプアニューギニア、コンゴ、ケニア、マラウイ、ザンビア、シエラレオネからそれぞれ来日しており、民族衣装も大変華やかなものでした。

研修は、普及教育グループ及び県北農林事務所農業普及部が対応したほか、女性農業者活動の現地視察先として、「ふくしま女性起業研究会（会長・油井妙子氏）」に御協力をいただきました。

6 月 14 日は、県庁にて、福島県の農業、普及体制、女性農業者の参画状況等を中心に研修しましたが、質問は女性活動にとどまらず、農産物の輸出入や水問題など多岐にわたり、大変熱心なものとなりました。

6 月 15 日の午前中は、ふくしま女性起業研究会副会長・安齋さと子氏のサクランボ生産ほ場を会場に、会の活動を紹介しました。会からは合計 6 名の参加をいただき、会が取り組む「出前講座」、「海外自主研修」、「交流イベント」等、福島的女性パワーを十分に研修し、更にサクランボ狩りや会員手作りの菓子、ちまき等を食しながら心温まる交流を行うことができました。

午後からは、県庁にて懇談会が行われ、普及指導員が支援した女性の事例紹介、生活改善や健康管理方法、研修生の国の現状等様々な話題が持ち上がりました。意見として「家族経営協定の締結を進めたい」（パプアニューギニア）、「女性の能力を活かすことが国の発展にもつながる」（アフガニスタン他）等が出されました。

終了予定時間も延長するほど熱心な討論となり、なお名残惜しみながらを研修を終了しました。

互いに大変有意義な研修となり、終了時には心が満ちあふれていました。



（ふくしま女性起業研究会副会長・安齋さと子氏のサクランボ生産ほ場での交流の様子）